



総整備売上高は3年ぶりに微減 作業内容別では事故整備のみ大幅減 日整連、2015年度「自動車分解整備業実態調査」結果の概要を公表

日本自動車整備振興会連合会（日整連）は1月21日、平成27年度（2015年度）の「自動車分解整備業実態調査」結果の概要を公表しました。今回の調査結果は2015年6月末時点のデータで、そのうち売上高などは同年6月末時点に最も近い決算期分の数値を元としているため、実質的には2014年4月～2015年3月の実績となります。

総整備売上高は前年度比0.1%・36億円減の5兆5,133億円と、3年ぶりに減少しました。業態別では兼業整備工場が同9.5%・623億円増の7,178億円、ディーラーが同0.7%・169億円増の2兆5,364億円と前年度に続き伸びたものの、専業整備工場が同3.5%・744億円減の2兆224億円、自家整備工場が同3.4%・84億円減の2,367億円とマイナスに転じています。

作業内容別では、自家用乗用車が対象となる「2年車検整備」で兼業及びディーラーが前年度比プラスを記録する一方、専業がマイナスでした。貨物車や事業用車が対象となる「1年車検整備」は、昨年度ほどの急激な伸びは見られないものの引き続き好調で、全業種とも前年度に対しプラスとなりました。

定期点検整備は、自家用乗用車が対象となる「1年点検」が専業（同3.4%・13億円減、364億円）を除き好調で、兼業は同14.0%・22億円増の179億円、ディーラーは同6.6%・114億円増の1,852億円でした。

事故整備は同5.9%・725億円減の1兆1,578億円へと減少しました。中でもディーラーは同10.7%・645億円減の5,377億円と落ち込みが大きかったものの、専業は同1.2%・53億円減の4,308億円と比較的軽微でした。その一方で兼業は、同5.3%・71億円増の1,421億円を記録しています。

その他整備は兼業の成長が目覚ましく、同

15.5%・298億円増の2,219億円となりました。これについて日整連は、「景気の緩やかな回復に加え、メンテナンスパックやオイル交換、ボディコーティング、車内脱臭などの販売努力が実を結んだのでは」と分析しています。

2012年10月からの自動車保険等級制度改定、先進安全技術の急速な普及などによる事故件数減少が事故整備売上高の減少をもたらした、それが整備売上高全体をマイナスに転じさせるほどの影響を及ぼしています。また、消費税率アップによる新車販売低迷や車両の耐久性向上などにより、平均使用年数は12年超で高止まりの傾向を示しています。

しかしながら、このように厳しい業況下でも、自費修理を中心とした事故整備の直需取り込みや、取り扱いサービス・商品拡大などの営業努力を積み重ねている工場は、兼業工場を中心として着実に業績を伸ばしています。

NGP協同組合では、使用済み車両仕入れ

拡大及び生産力強化により、低年式車オーナーや軽微な損傷を受けた車両のオーナーなど、安価な整備・修理を望むカーオーナーの入庫拡大に積極的な整備・修理工場の皆様を中心に、安定して安価かつ高品質なNGPリサイクル部品をご提供できるよう尽力しております。

また、NGPリサイクル部品活用に積極的な整備・修理工場をご紹介するサイト「NGPエコひろば」(<http://www.eco-hiroba.net/>)や、新品部品の修理見積りとNGPリサイクル部品を用いる場合の自費修理見積りを同時に作成できるかんたん钣金見積システム「ぱっと！くん」のご提供などを通じ、自動車整備・修理工場の皆様を支援いたしております。

NGPリサイクル部品のご用命、NGPエコひろばへの登録及びぱっと！くんのご提供については、最寄りのNGP組合員へぜひお気軽にご相談ください。

2015年度 業態・作業内容別整備売上高（単位：億円）

業態	作業内容	車検整備			定期点検整備				事故整備	その他整備	合計
		2年	1年	小計	1年	6ヵ月	3ヵ月	計			
専・兼業	売上高	8,537	4,114	12,651	543	137	299	979	5,729	8,043	27,402
	増減額	-188	+139	-49	+9	-1	+29	+37	+18	-127	-121
	増減比	-2.2%	+3.5%	-0.4%	+1.7%	-0.7%	+10.7%	+3.9%	+0.3%	-1.6%	-0.4%
	売上高	5,946	3,418	9,364	364	101	263	728	4,308	5,824	20,224
	増減額	-386	+105	-281	-13	-4	+32	+15	-53	-425	-744
	増減比	-6.1%	+3.2%	-2.9%	-3.4%	-3.8%	+13.9%	+2.1%	-1.2%	-6.8%	-3.5%
専業	売上高	2,591	696	3,287	179	36	36	251	1,421	2,219	7,178
	増減額	+198	+34	+232	+22	+3	-3	+22	+71	+298	+623
	増減比	+8.3%	+5.1%	+7.6%	+14.0%	+9.1%	-7.7%	+9.6%	+5.3%	+15.5%	+9.5%
	売上高	6,874	1,420	8,294	1,852	279	178	2,309	5,377	9,384	25,364
	増減額	+122	+85	+207	+114	+52	+52	+218	-645	+389	+169
	増減比	+1.8%	+6.4%	+2.6%	+6.6%	+22.9%	+41.3%	+10.4%	-10.7%	+4.3%	+0.7%
ディーラー	売上高	688	255	943	86	25	19	130	472	822	2,367
	増減額	-66	+272	+206	+109	+55	+55	+219	-725	+264	-36
自家	売上高	16,099	5,789	21,888	2,481	441	496	3,418	11,578	18,249	55,133
	増減比	-0.4%	+4.9%	+1.0%	+4.6%	+14.2%	+12.5%	+6.8%	-5.9%	+1.5%	-0.1%
合計	売上高	16,099	5,789	21,888	2,481	441	496	3,418	11,578	18,249	55,133
	増減額	-66	+272	+206	+109	+55	+55	+219	-725	+264	-36
	増減比	-0.4%	+4.9%	+1.0%	+4.6%	+14.2%	+12.5%	+6.8%	-5.9%	+1.5%	-0.1%

IAAE2016開催

厳しさ増す市場環境克服のための 製品・ツールに数多くの事業者が注目

車両販売、整備、車体修理、ディテール、そしてリサイクルなど自動車アフターマーケットの総合展示会「第14回国際オートアフターマーケットEXPO2016」(以下、IAAE)が、3月16～18日の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されました。

合計出展者数は199社・団体(前回180社・団体)、小間数は407小間(前回350小間)、そして3日間の総来場者数は延べ34,395名(前回30,056名)、登録実数でも12,606人(前回12,280名)といずれも大幅に増加しました。

今回のIAAEにはNGP提携リビルトメーカーから、ジャパンリビルト(株)(田中勝

弘社長、大阪府堺市)とイトーパーツ(株)(伊東徹社長、千葉県佐倉市)が出展しました。ジャパンリビルト(株)はスズキ製軽自動車用ビスカスデフやステアリングギアボックス、イトーパーツ(株)は全面サフェーサー塗布済みのリビルトフロントバンパーフェイスやフロントフェンダーなどを展示し、高品質かつ安価で収益性が高く整備・修理工場の作業軽減にも貢献できるリビルト部品の特徴をアピールしています。

増税による新車販売低迷、中古車海外輸出の増大、保有年数の長期化、電動化及び自動運転技術の普及による整備・修理の減少、自動車保険等級制度改定による保険修理の減少、スクラップ相場の暴落など、自動車アフ

ターマーケットは今、数多くの大きな逆風を受けています。その中で整備工場や車体修理工場、新車・中古車販売店、ディテールショップ、そして自動車リサイクル業者は、この逆境を乗り越え生き残る術を懸命に模索しています。

そのことを示すように各ブースでは、出展者が展示する製品や取り組みがなぜ必要かを熱心に説明するとともに、出展者へ積極的に質問を投げかける来場者の姿が常に見られました。今回のIAAEにおける出展者数・小間数・来場者数の大幅増は、こうした強い危機感が自動車アフターマーケット全体に波及した表れといえそうです。



ジャパンリビルト

スズキ・キャリイ用ステアリングギアボックス(写真)や、東北地方などで需要が多いスズキ製4WD車用ビスカスデフのほか、各種リビルト部品を幅広く展示



イトーパーツ

全面サフェーサー塗布済みのバンパー・フェンダーなど外板のほか、ウォーターポンプやクラッチカバードライブシャフトなど機能系リビルト部品も披露した



全日本ロータス同友会

「次世代型自動車サービス業モデル2020」で示した次世代店舗のレイアウトを例示しつつ、(株)ロートピア扱いのメンテナンスリース「新★車生活」などを紹介



BS サミット事業協同組合

提携企業が扱う水性塗料、軽量素材の修理に対応するツール類、アライメントデスター、ボディ計測・修正装置などを展示し、会員工場の先進性をアピールした



TM コーポレーション

24時間365日営業を核としたロードサービス、「保険キャンパス」による生命保険事業、多能工を育成する「TM塾」などの取り組みを説明し加盟を呼びかけた



東京タイヤ

タイヤ、バッテリー、エンジンオイルの3プライス均一販売システムを紹介し、同FC加盟のメリットを訴求。中古部品販売チェーン「アップガレージ」もPR



日立オートパーツ&サービス

スキャンツール「HDM-8000」やバッテリーテスター「HCK-601FB」などを用いた「自動車健康診断」での予防整備提案を訴求しつつ、各種補修部品を展示



日本特殊陶業

プラグの劣化が電圧の増加を招くことでイグニッションコイルの消耗も促進されるメカニズムを解説し、プラグを早期に点検・交換することの必要性をアピール



スリーエムジャパン

サンドペーパーやバフ、コンパウンドなど磨き関連製品を展示したほか、塗装乾燥時間を大幅に短縮する「クイックドライシステム」の効果を動画で紹介した



関西ペイント販売

2015年3月に発売した新型水性塗料「レタン WB エコ EV」を用い、新型トヨタ・プリウスに設定された3T7エモーションレッドのボカシ塗装を紹介、実演



アスナル

「クロスリペアキット」での布シート補修を実演しつつ「レザーリペアキット」、「ルーファイニング張替えキット」を紹介。内装補修の潜在需要の大きさを訴えた



日本ジェット・オン

誘導加熱でガラスなどの取り外しを容易にする「インダクター」や、接着剤金具「ファストブーラー」、ヘッドライト黄ばみ取り「クロスフィニッシャー」を紹介

中古部品ECサイト「クルーバー」とNGPシステムが連携 「クルーバー」を通じ海外のカーユーザー向けに NGPリユース部品の販売を開始します



(株)ZERO TO ONE (河野映彦社長) 及びNGP協同組合は3月1日、中古部品販売チェーン「アップガレージ」やタイヤ販売チェーン「東京タイヤ流通センター」で知られる(株)クルーバーホールディングス(石田誠社長)傘下の同社が運営する中古部品ECサイト「クルーバー(Croooober)」(<http://www.croooober.com/>)と、同組合が運営する自動車リサイクル部品在庫共有システム「NGPシステム」とをシステム連携させるとともに、海外のカーユーザー向けにNGPリユース部品の販売を開始することを発表しました。

(株)クルーバーホールディングス(当時：(株)アップガレージ)とNGP協同組合は2014年2月に業務提携し、NGP組合員のうち手挙げ方式で加盟店参加を希望した約30社が社外部品、電装部品、シート等のリユース部品を「クルーバー」へ出品してきました。

その後(株)クルーバーホールディングスが2014年4月に発足し、翌2015年4月には(株)ZERO TO ONEが設立され同社が「クルーバー」の運営を引き継いでいます。

同サイトがさらなる商品拡充と海外販売強化を目指していく中で、NGP協同組合は今

期第12期より「海外販路拡大」を事業方針の一つとして掲げたことで、双方の戦略が合致したため、今回のシステム連携に至りました。

従来はNGP組合員が「クルーバー」へ商品を一点一点登録する必要がありましたが、今回のシステム連携により、NGPシステムに登録された100万点超の自動車リサイクル部品は自動的に「クルーバー」へ出品されることになります。

これにより、「クルーバー」が得意とする北米や東南アジアのカーユーザーへダイレクトにNGPリサイクル部品を販売することが可能となります。「クルーバー」は海外で

も多くのクルマ好きに利用されているため、NGP協同組合では通常の海外人気部品とは違った商品にニーズがあるものと期待しています。

NGP協同組合は自動車リサイクル部品業界のリーダーを自負し、日本における自動車リサイクル部品業界のレベルアップを目指しています。今回のシステム連携を通じ、日本国内と変わらない高品質なNGPリサイクル部品を海外でも販売し、NGPブランドを強くアピールすることで、海外そして日本のリサイクル部品市場拡大につなげていきたいと考えております。

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成28年2月: **4,055t**



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成28年2月: **10.2t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA(ライフサイクルアセスメント)データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO₂削減効果参考値を算出しております。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

明治大学大学院の高橋颯太氏が研究発表

「温室効果ガス排出削減量評価の算定および公開事例ー自動車リユース主要50部品ー」について講演

3月2～4日に東京大学柏キャンパス（千葉県柏市）で開催された「第11回日本LCA学会研究発表会」で、明治大学大学院の高橋颯太氏が、「温室効果ガス排出削減量評価の算定および公開事例ー自動車リユース主要50部品ー」と題した講演を行いました。

NGP協同組合ではリユース部品使用による環境負荷削減効果を、明治大学及び富山県立大学と共同で研究しています。2015年6月から開始された今期第3期研究会では、新品部品生産時のGHG（温室効果ガス）排出量をより精密に算出するため、27車種38台それぞれの部品50種類について、重量と素材の分解調査を実施しました。

講演では、同調査によって算出された新品部品生産時のGHG排出量と、第2期研究会で算出されたリユース部品生産時のGHG排

出量を示すとともに、後者の数値が極めて小さいためリユース部品を使用すれば新品部品生産時とほぼ同等のGHG排出量を削減できることを説明しました。

また、38台の調査結果に基づき、車検証に記載されている寸法・重量・排気量及び車両のボディ形状から、あらゆる車種・部品のGHG削減量を推定する方法を紹介しました。その中で、フロントドアは車両重量とGHG排出量がほぼ比例する一方、ボンネットはセダンが長くミニバンは短いなど、車両重量よりもボディ形状が部品のサイズ、つまりGHG排出量に大きく影響することを例示しています。

NGP協同組合では今後、専用Webページを開設し研究成果を公開してGHG削減値を無料ダウンロード可能にするほか、NGP

リユース部品の受発注時に見積書や納品書へGHG削減量を記載し、さらに環境に優しい証としてNGPリユース部品に専用シールを貼付することを計画しています。



第11回日本LCA学会研究発表会で「温室効果ガス排出削減量評価の算定および公開事例ー自動車リユース主要50部品ー」について発表する高橋颯太氏



NGP協同組合・北関東支部、第2回「G15会議」を開催 15社が単独では困難な海外輸出と 素材回収で協力しあい経営基盤を強化

NGP協同組合・北関東支部は3月12日、大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）で第2回「G15（ジーフィフティーン）会議」を開催しました。

同会議は、NGP協同組合が今期第12期より掲げる事業方針「海外販路拡大」、「支部内流通活発化」、「次世代人材育成」、「素材回収スキーム構築」を北関東支部内で着実に実行すべく、（有）しのぶやの小林達也社長を議長とし、同支部に所属するNGP組合員15社の解体及び輸出営業担当者が中心となって発足したものです。なお、「G15」の「G」は「グローバル」を意味し、世界各国でのビジネス拡大を目指すことから名付けられました。

同支部生産・フロント会議と併催された今回の会議には小林信夫副理事長も出席し、冒頭の挨拶で「NGPグループでは創立当初より、あなたの倉庫は私の倉庫」というスロー

ガンのもと、一社だけでは補いきれないところを組合員同士が協力しあい、より多くのリサイクル部品をより多くの整備・修理工場へ流通・販売してきました。G15も、一社では難しいコンテナでの海外輸出やより精緻な素材回収・販売などを実現するための、良き情報交換及び協議の場として、明確なビジョンを持って活動していった下さい。同様の会議は他支部でも発足し、全国に広がりつつあります」と激励しました。

その後のG15会議では同支部各社より、使用済み車両の入庫・解体台数及び平均仕入れ価格、他支部に先駆け2015年1月よりトライアルで実施されている海外コンテナ事業での販売状況が発表されました。また、素材回収スキーム構築のため、各社が共同出荷



G15会議で議長を務める小林達也社長

する部位の選定が行われています。

小林達也議長はG15発足の経緯と今後について、「生産管理者とフロントマンには従来から生産・フロント会議を通じた組合員同士のつながりがありましたが、解体及び輸出営業担当者にはそれがありませんでした。一社だけで成長するのは難しいこれからの時代、組合員同士が情報共有し協力することでスケールメリットを生み出し、各社の経営基盤強化につなげていきます」と、その意気込みを述べています。

訃報

3月29日、（株）アートパーツ長野（長野県松本市）代表取締役、鈴木修一様の御母堂・鈴木久子（すすきひさこ）様をご逝去されました。享年85歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>